

2009

広報

おばま 2

《表紙》

11月6日から2月3日
まで、発心寺の寒修行が
行われています。午前8
時すぎ、墨染めの衣に網
代笠姿の雲水らが山門を
出発。独特の低い声を響
かせながらたく鉢を行っ
ています。

(11月13日)

【特集】 松崎市長 新春インタビュー

小浜市全体が元気で 発展していく礎を築く一年に

市の広報企画番組として、正月にチャンネルOで放送した「松崎市長新春インタビュー」。その様子を抜粋して掲載します。



高橋アナウンサー（チャンネルO）の質問に答える松崎市長

観光局設立に向けて

高橋 あけましておめでとございます。昨年八月の就任以来、公約実現のため日々精力的に取り組まれた事柄や今年の抱負などについてお伺いします。

地域力集結プロジェクトの一つに「小浜観光局」の創設構想がありますが、観光局とはどういったものでしょうか。

市長 観光局とは観光のすべてを統括するところです。日本ではあまり知られていませんが、ヨーロッパ

にはたくさんあるんですよ。ちなみに、国内では長野県白馬村にあります。

観光は、今大きく形態が変わってきています。昔は団体旅行でいろいろな観光名所を見て回るのが主流でしたが、徐々に個人旅行へと変化し、見るだけではなく何か体験したり、おいしいものを食べたりする形に変わってきました。

そんな中、小浜市は食のまちづくりやちりとてちんの放映、オバマ大統領の効果もあって非常に知名度が上がってきています。その知名度を生かして、観光という観点で小浜市の産業、文化、歴史を活用していくことが大事であり、それらすべてを統括する機関として「小浜観光局」というも

のを考えています。これは市の部局としてではなく、できれば半官半民の中で農林水産業、商工業すべての方に関わっていた大きながら、それを観光という切り口で考えていくという機関にしたいと考えています。

高橋 現在の進ちよく状況について教えていただけますか。

市長 昨年八月末から三回にわたって検討委員会を、市の担当部局、商工会議所、観光協会のメンバーで実施し、準備委員会を立ち上げる準備を進めています。官民一体となった取り組みとなりますが、四月から市の体制を変え、現在の五つの部から総務部、企画

部、民生部、産業部の四つに編成します。観光局は、産業と観光が非常に密接しているため、産業部で担当したいと考えています。できるだけ多くの農林水産業の関係者、商工関係者、さらに広く市民の皆さんにも加わっていただけて準備委員会を立ち上げたいと考えています。

高橋 今後の構想について教えてくださいませんか。

市長 先ほど体験型と言いましたが、例えば海の体験をするブルーツーリズム、農業や林業を体験するグリーンツーリズム、環境などを生かしたエコツーリズムなどを企画していきたいです。

その中で、準備委員会の

今年の抱負

高橋 今年をどんな年にしたいですか。

市長 まず政務に一生懸命頑張るために健康管理に十分留意したいです。

観光局を立ち上げるための準備委員会の早期設立のほか、中国での観光PRのようになれるだけ観光や企業誘致などについてトップセールスを実施し、わたし自らが小浜を売り込んでいきたいと考えています。今後はこうした機会を増やしたいですね。

最後に、皆さんの期待に応えられるように、小浜市が勢いよく飛躍できるようにマニフェストの着実な実行に努めてまいります。とにかく小浜市全体が元気で、これから発展していく礎を築く一年にしたいです。

メンバーがそれぞれの分野のマイスター（専門家）になり、いろいろなメニューを考えて、観光客の案内や体験の手伝いをしてもらいたいんです。多くの市民の皆さんにも携わってもらい、ホスピタリティー（おもてなしの心）を醸成していきたいですね。

観光客が、「小浜で市民の皆さんからたいへんもてなししてもらった。また行ってみたい」ということが口コミで広がったり、マスコミに取り上げられたりして有名になると、それが観光客の増加につながります。そのための観光局です。今年早々に準備委員会を立ち上げて、早い時期に観光局を創設したいと考えています。

*

昨年十二月二十日から二十三日まで、中国の友好都市を訪問してきました。杭州市、上海市の旅行社の方に集まっていたとき、小浜市のPRをしてきました。中国の情報誌の関係



中国平湖市で小浜市をPRする松崎市長

者にも取材をしていただいたので、おそらく中国の雑誌の中で小浜のことが紹介されるのではないのでしょうか。

将来はこうしたPR活動も観光局で実施し、国内だけではなく、海外からも小浜に来ていただける体制を作りたいと思っています。

市長と夢トーク開催

高橋 「市長と夢トーク」と題して市内十二地区を訪問されたようですが、皆さんの反応や意見についてお聞かせください。

市長 昨年度まで実施していた地区別政策懇談会では、地域の人の要望を聞くことが中心でした。夢トークは、市長就任時から「地域力集結プロジェクト」の中で考えていたことで、各地区の地域力を上げることが目的として、夢のある話をしようと思ってきました。だきました。まちづくりについてわたしの考えをお話しし、それに対するいろいろな意見をいただきました。皆さんの地域に対する熱い思い、構想などを直接聴けたことは、たいへん有意義だったと思います。

今後も皆さんと話し合う機会を持たせていただき、できるだけ施策の中で反映できるように考えていきたいと思っています。

印象に残った出来事

高橋 昨年、印象に残った出来事は。

市長 就任してから「つばき回廊問題」について、

一生懸命取り組んできました。まだ途中ですが、一つの解決を見たこと、まちづくりの賑わい創出に向けてこれから発展していくという方向が決まったことなどは非常に大きなことだったと思います。

※詳しくは四〇五ページをご覧ください

次に小浜フィーバーですね。「ちりとてちん」効果でたくさんの方が来られたほか、「オバマ候補を勝手に応援する会」が一生懸命応援してこられたオバマ氏が大統領に当選され、大フィーバーが起こりました。

昨年は「福井県に話題が集中しすぎた」と言われるほどで、小学館の「DIME」トレンド大賞特別賞を福井県が受賞しましたが、小浜市が大きく貢献したと言えるのではないのでしょうか。今年も継続させてまちづくりにうまく活用させていきたいと考えています。

つばき回廊商業棟を取得

新しい「まちづくり」がスタート



1月31日で閉鎖することになったつばき回廊商業棟

市街地再開発事業で誕生した「つばき回廊」。平成三年に業務棟、同四年に商業棟、同五年にはホテル棟がオープンし、多くの人が集う観光文化商業都市の中核として、若狭地域全体の発展に貢献してきました。

しかし、徐々に客足が遠のき、同十六年、商業棟の核テナント西友(株)が撤退。同十九年に管理運営していた白鬚開発(株)が破産したあとは、テナント店が次々と撤退していきました。

関係者による会議を何回も開催し、協議を重ねた結果、市は商業棟を千五百九十五万円で取得することを決定。先の十二月議会で補正予算が承認されました。同棟は一月三十一日で閉鎖し、同二十一年度中に解体する予定です。

解体後の跡地利用については、「つばき回廊商業棟跡地利用検討委員会」で議論していただきながら、中心市街地のにぎわいを創出していきたいと考えています。

新しい「まちづくり」がスタートしました。

経過・概要(主なもの)

- 【平成三年二月】業務棟一・二階オープン
- 【同三年六月】業務棟三〜六階オープン
- 【同四年十月】商業棟オープン
- 【同五年四月】ホテル棟オープン
- 【同十六年八月】核テナントの西友(株)撤退
- 【同十九年二月】核テナント候補、建物買収による進出を断念。地元のスーパード退店
- 【同十九年四月】白鬚開発(株)が破産申請
- 【同十九年六月】地域活性化対策委員会設置(議会)
- 【同十九年八月】小浜市中心市街地問題研究協議会開催(市・有識者・関係団体・市民)
- 【同十九年十二月】つばき回廊問題特別委員会設置(議会)
- 【同二十年二月】つばき回廊問題庁内連絡会議設置(市)
- 【同二十年十二月】十二月議会で取得費、閉鎖工事費などの承認を得る。不動産売買契約を締結

なぜ市が取得する必要があったのか

核テナントの西友(株)が撤退してから、市は商工会議所などとともに、後継テナントの誘致に向けて取り組んできました。

しかし、建物が非常に大きく維持管理に多額の費用が必要となることや平面駐車場が確保できないことなどから、後継テナントを誘致することができませんでした。

また、破産した白鬚開発(株)の競売手続きに入った場合も、同様の理由から落札者が決まらないことが

予想されました。

長期間にわたって空きビルとして放置された場合、外壁の落下などが危ぐされ、市が維持管理にかかわらざるを得なくなるとともに、中心市街地のまちづくりにとつても大きなマイナスとなります。

そのため市では、商業施設としての再生は困難という結論に達し、先の十二月議会で土地・建物の取得費用を認めていただき、十二月二十二日に破産財団から千五百九十五万円で取得しました。

商業棟は解体費用は業務棟の売却代金で

商業棟は一月三十一日で閉鎖し、平成二十二年三月末までに解体してさら地にします。解体費用は、約二億二千万円を予定しています。

解体費用については、業務棟(六階建て)のうち、市所有の一・二階と四〜六階を小浜信用金庫に二億二千万円で売却し、その売却代金を充てることになっていきます。県所有の三階部分については、将来、同信用金庫の

所有となるよう市が支援していきます。

市立図書館は業務を継続

市立図書館、県の機関(嶺南消費生活センターなど)については、当分の間現在のまま業務を行います。

▼市民サービスコーナー▼市ボランティア・市民活動交流センター▼児童家庭支援センター白梅▼若狭湾観光連盟については、商業棟の解体終了後、ほかの場所に転移していただくこととなります(移転先は現在検討中)。

憩いの場を提供しにぎわいを創出したい

さら地となった商業棟跡地の利用については、各団体の代表や公募の市民らで構成する「つばき回廊商業棟跡地利用検討委員会」で協議していただきます。

市だけでなく、市民の皆さんとともに将来のまちづくりについての絵を描き、観光客や市民が気軽に立ち寄れる憩いの場を提供しながら、中心市街地のにぎわいを創出していきたいと考えています。

★ご迷惑をおかけします★

市立図書館など業務棟へお越しのときは、「市営広峰駐車場」をご利用ください

つばき回廊商業棟の閉鎖に伴い、駐車場も閉鎖させていただきます。市立図書館など業務棟を利用される皆さんには、たいへんご不便をおかけしますが、**2月1日からは、市営広峰駐車場**を利用させていただきますようお願いいたします(徒歩3分、1時間まで無料)。

各施設の利用時間が1時間を超過した場合、窓口で駐車券を提示していただくと、超過した最初の1時間に限り、駐車料金が無料になるサービス券をお渡しします。

皆さんのご理解とご協力をお願いします。



【市営広峰駐車場】

